

3. 産業衛生技術部会

産業衛生技術部会は、平成12年4月、北九州で開催された第73回日本産業衛生学会総会の際に準備会を立ち上げて活動を開始し、翌13年4月、高知で開催された学会総会において産業医部会、産業看護部会に次ぐ3番目の専門部会として承認された。設立総会では、「国際レベルのインダストリアルハイジニストを目指して」というシンポジウムを開催しており、単なる作業環境管理、作業管理に関する技術面のみならず、総合的な視野をもって職場環境の評価・改善・管理を行える人材の育成を目指して活動している。

九州地方会の会員数は現在44名であるが、福岡県が32名と全体の7割以上を占め、他は佐賀2名、大分1名、熊本4名、宮崎0名、長崎3名、鹿児島1名、沖縄1名となっている。活動としては、発足以来、九州地方学会会の開催と合わせて、自由集会の中で産業衛

生技術に関する講演会、研修会等を開催してきた。しかしながら、実際の現場で産業衛生技術の領域を主として担当している作業環境測定士や衛生管理者の部会員は極めて少ないため、学会に合わせて開催しても実務者の参加は限られていた。そこで平成27年度は、地方会学会とは別日程で地方会部会研修会を開催し、会員に限らず、若手の作業環境測定士、衛生管理者を演者に招いて、現場の話題を中心とした研修会としたところ、参加者も増え、好評であった。平成28年6月に640の化学物質についてリスクアセスメントが義務化されるなど、日本の労働安全衛生も事業者の自主的な取り組みがますます重要になりつつある現在、事業場や測定機関においてリスクの評価、管理ができる技術者の育成は急務であり、このような活動を支援するためにも、現場の安全衛生技術の担当者をいかにして部会員に取り込んでいくかが今後の部会の課題と言える。

(文責 保利 一)



九州地方会研修会2015



産業衛生技術部会九州地方会2014